

# 富士重工業グループのCSR

以降のページでは、富士重工業グループのCSRに関する取り組みを「CSR活動8項目」に基づき報告します。



## 企業理念

- 1 私たちは常に先進の技術の創造に努め、お客さまに喜ばれる高品質で個性のある商品を提供します。
- 2 私たちは常に人・社会・環境の調和を目指し、豊かな社会づくりに貢献します。
- 3 私たちは常に未来を見つめ国際的な視野に立ち、進取の気性に富んだ活力ある企業を目指します。

## 企業行動規範

当社では企業理念に基づいた事業活動の実践に向けて、コンプライアンスを順守し社会的責任を果たしながら行動していくための企業行動規範を定めています。従業員一人ひとりがお互いを尊重しながら、この企業行動規範を尊び同じ価値観で行動することを通じて、豊かな社会づくりに貢献し、すべてのステークホルダーに信頼される企業となるべく努力を続けてまいります。

- 1 私たちは、環境と安全に十分配慮して行動するとともに、創造的な商品とサービスを開発、提供します。
- 2 私たちは、一人ひとりの人権と個性を尊重します。
- 3 私たちは、社会との調和を図り、豊かな社会づくりに貢献します。
- 4 私たちは、社会的規範を順守し、公明かつ公正に行動します。
- 5 私たちは、国際的な視野に立ち、国際社会との調和を図るよう努めます。

## スバルのありたい姿 (中期経営計画)

当社では、コア事業である自動車部門“スバル”が、今後10年以内に年間100万台を超える販売を達成するという成長目標を掲げ、その基盤固めとなる2011年度から2015年度までの5年間を対象とした中期経営計画“Motion-V (モーションファイブ)”を策定しました。本中期経営計画では、「お客さま第一」を基軸におき、“Confidence in Motion～信頼と革新～”を行動指針として、諸課題の解決に取り組んでいます。

具体的には、ブランド戦略として、スバルがお客さまに提供する価値を「安心と愉しさ」と定義し、その価値を高め、ファン層の拡大を目指します。商品面においてはスバルの強みである安全性能や走行性能、社会のニーズが高い環境性能の向上を図り、ハイブリッド車を含め毎年新商品を投入して、商品ラインナップを拡充します。販売面では米国と中国を重点市場と定め、5年間で約30%の台数増に挑戦し、生産面では販売台数に見合い、為替対応力を高める生産体制を構築します。こうした活動で事業の規模を拡大し、さらに原価低減活動やアライア

ンス効果を組み合わせ、環境技術の開発投資、原価上昇、為替変動などのさまざまなリスクや環境変化を克服し、成長を目指す計画です。

また、CSRの取り組みについては、

- ◆ 社会的課題の解決に寄与する商品・サービスを提供する企業
  - ◆ さまざまなステークホルダーとのかかわりを大切にする企業
- を目指して、積極的に活動を推進してまいります。

### “Motion-V” 5つのテーマ

1. すべての活動を貫く行動指針 “Confidence in Motion”

2. お客様視点を徹底した、“新たなスバルらしさの追求”
3. 販売力と供給力を強化して “加速する規模の拡大”
4. 原価構造改革、提携効果拡大など “事業基盤を強化”

スバルの成長を実現する取り組み

5. 事業の具体的な取り組みを支える “経営の質の向上”

## CSR方針

お客さまに喜んでいただけるモノづくり企業として、企業組織レベルの取り組み要件である「企業行動規範や重要項目の尊重を主体とした守りのCSR」と「企業市民として事業活動を通じて社会課題の解決に寄与することを主体とした攻めのCSR」をより明確にするため、CSRにかかわる委員会の承認を経てCSR方針を改定しました。

当社のCSR活動は、さまざまなステークホルダーとのかかわりに重点を置くとともに、グローバルな事業活動を通じて社会の持続的発展に貢献することであり、富士重工業グループの使命と考えています。

### 「CSR方針」(2009年6月改訂)

- 1 私たちは、富士重工業の企業行動規範に基づき、法令、人権、国際行動規範、ステークホルダーの権利およびモラルを尊重します。
- 2 私たちは、企業市民として、現代社会が抱える世の中の社会問題の改善に向けて取り組みます。

# CSR活動8項目

当社では、従業員一人ひとりが業務を通じて組織的に推進することができるようにCSR活動8項目を掲げています。また、社会からの要請に確実に対応できるように、各項目ごとに詳細な活動を定義し、CSR活動の具現化を図っています。

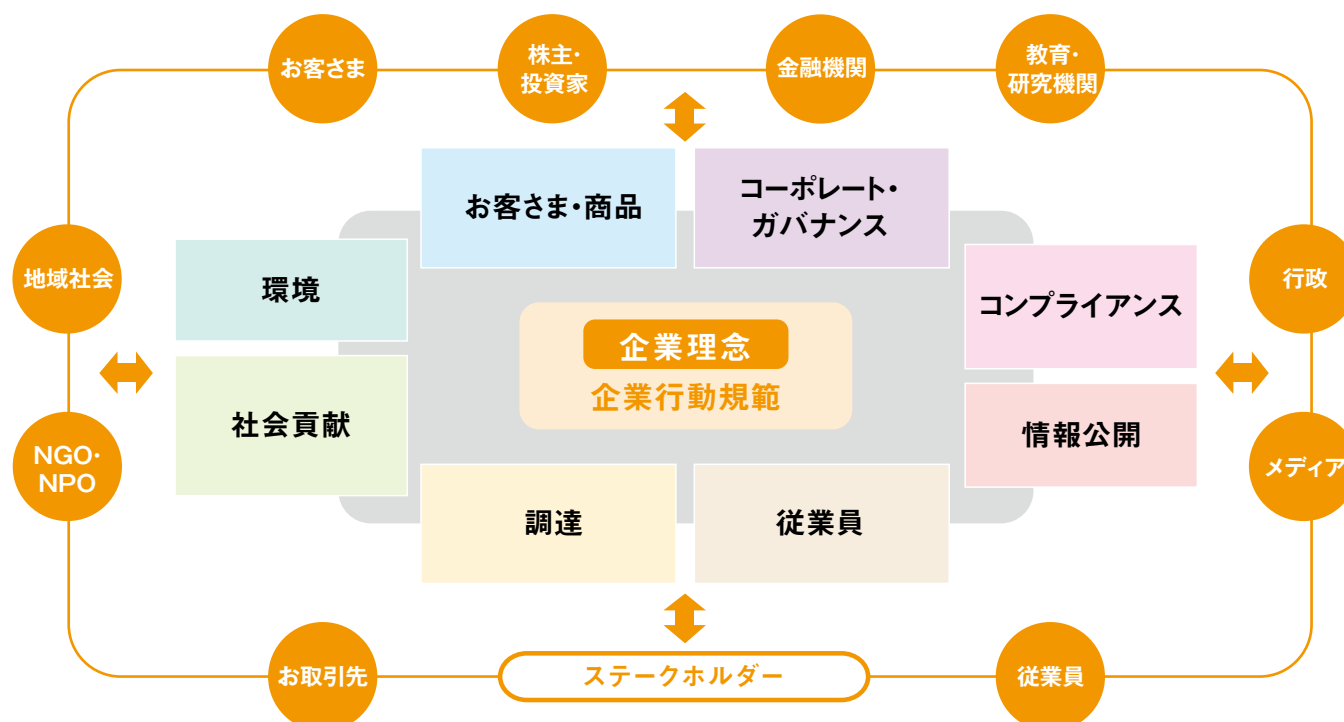
## 富士重工業CSR活動8項目

| 項目  | お客さま・商品                                   | 従業員   | 環境  | コンプライアンス  |
|-----|---|---|---|---|
| 考え方 | 社会的に有用で安全な商品・サービスを提供し、お客さまの満足と信頼を得る。      | 従業員の多様性、人格、個性を尊重するとともに、安全で働きやすい環境を確保し、ゆとりと豊かさを実現する。 | 環境問題への取り組みは人類共通の課題であり、企業の存在と活動に必須の要件として、主体的に活動する。 | 法律やモラルを守り、公正・透明・自由な競争ならびに適正な取引を行う。また、個人情報・お客さま情報ははじめとする各種情報の保護・管理を徹底する。 |
| 項目  | 情報公開                                      | 社会貢献  | 調達  | コーポレート・ガバナンス  |
| 考え方 | 株主さまをはじめ広くコミュニケーションを行い、企業情報を積極的かつ公正に開示する。 | 「良き企業市民」として、積極的に社会貢献活動を行う。                          | 適正な調達を行うとともに、取引先におけるCSRの推進を促す。                    | 経営トップは社内およびグループ企業に対しCSRの徹底を図るとともに、緊急事態が発生した場合は、自らが問題解決にあたる。             |

\*CSR活動の「考え方」は企業行動憲章（社団法人 日本経済団体連合会）を参考にしています。

## ステークホルダーの皆さまとのかかわり

2015年度までの中期経営計画におけるCSRの目標として掲げた「社会的課題の解決に寄与する商品・サービスを提供する企業」、「さまざまなステークホルダーとのかかわりを大切にする企業」は、長期ビジョンである「存在感と魅力ある企業」を実現するための必要不可欠な基本事項です。今後ともステークホルダーの皆さまから信頼される企業を目指して、継続的に社会発展へ貢献するとともに、企業価値の向上を図っていきます。

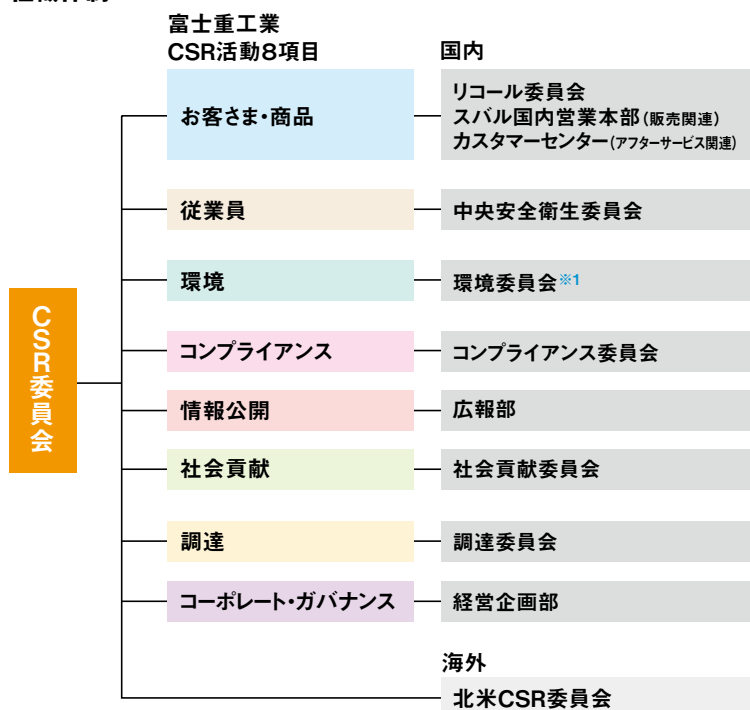


# CSR推進体制

当社では、これまで CSR・環境委員会を設置して CSR活動を推進してきましたが、2010年度より、当社の CSR活動8項目をより明確にして組織的に推進するため、経営トップを委員長とする CSR委員会を設置しました。

CSR委員会は、CSR活動8項目にかかわる専門の委員会および部門で構成し、全社的な管理のもと、それぞれの部署が主体となり活動に取り組んでいます。また、委員会には北米 CSR委員会を加えて、グループ企業によるグローバルな CSR活動を推進しています。

## 組織体制



※1 環境委員会の組織体制はP34に記載しています。

## 2011年度の主な取り組みと 2012年度以降の活動

2006年度からスタートした CSR活動をベースに、CSRの重点課題に確実に対応できるよう、さらなる活動の充実と強化を目指して取り組んでいます。

2011年度は、当社の中期経営計画においてテーマのひとつとして掲げた CSR課題の実現に向けて、CSR活動8項目を基本とした活動を推進するとともに、主に事業活動を通じて、さまざまな社会課題の解決に向けた取り組みを行いました。

具体的には、活動の定義に基づき、それぞれの課題を整理して、課題解決に向けた取り組みを進めました。また、従業員に対しても、一人ひとりが CSR活動を認識し業務を通じて CSR活動を推進できるよう、社内の CSRコミュニケーションの活性化を図りました。

2012年度以降も、これまで通り着実に、実直に、活動を続けてまいります。

### 2011年度の主な取り組み

- 環境性能、安全性能に優れた「新型インプレッサ」を、日米を初めとする世界各市場に導入
- 東日本大震災の復興支援として、会社および従業員からの寄付活動、被災地への当社製品の寄付・無償貸与、さらに地域自治体との連携による被災者就労支援などの活動
- 社内不正行為の発覚を機とする内部監査部門の体制強化、コンプライアンスの再徹底

### 2012年度以降の目標

- 環境性能の向上など社会情勢に適し、かつ市場要望に即した形でのスバルらしい商品の開発・市場投入の継続
- 震災対応などの実態を検証するBCP※2の再確認と、それに基づくリスクマネジメントの再構築
- 2012年度から2016年度までの第5次環境ボランティアプランに基づく環境保全活動の推進

※2 BCP: Business Continuity Plan (事業継続計画)